



新たな総合計画の策定について

令和5年 7月 神奈川県政策局

見直しの概要

今年度、新たな総合計画の策定に着手

(2024年度から開始を想定)



かながわグランドデザイン 基本構想

〈基本目標や政策の基本方向〉

目標年次 2025年
(策定 2012年)

見直しへ



かながわグランドデザイン 第3期実施計画

～コミュニティの再生・活性化による笑いあふれる100歳時代～

〈4年間に取り組む政策〉

計画期間 2019－2022年度

次期計画へ

見直しの経緯

昨年度、総合計画の点検を実施

※ 「かながわグランドデザイン 第3期実施計画 点検報告書」 (2023年3月作成)

策定時の社会環境

(現行基本構想)

人口減少・超高齢社会

- ・ 県の人口減少が予測される
- ・ 団塊世代が後期高齢者 (2025年問題)

東日本大震災

- ・ 電力不足
- ・ 大規模地震や津波などの自然災害

昨年度点検結果

政策や取組の**方向性は適切**であった。
一方、**さらなる課題**の顕在化も確認。

社会環境の変化

人口減少・超高齢社会

- ・ 県も人口減少局面に入ったと考えられる
- ・ 団塊ジュニア世代の高齢化 (2040年問題)

不確実性の高まり

- ・ 新興感染症の再来の可能性
- ・ 国際情勢の不安定化
- ・ 気候変動による影響

新たな総合計画（検討状況）

新たな総合計画の策定に向けて、策定基本方針を決定

※ 「新たな総合計画の策定基本方針」（2023年7月決定）より

策定基本方針 — 策定趣旨 —

今日、神奈川においても明らかに人口減少局面へ。
新型コロナなど予測し得なかった事態にも直面。

2040年頃には団塊ジュニア世代が高齢者となり、
見据えてきた課題が一層鮮明化していく。

さらに、将来の不確実性が高まっており、潜在的な
課題をあらかじめ浮き彫りにしていくことが重要。

県民と長期的なビジョンを共有する必要がある。

新たな総合計画（検討状況）

策定基本方針 — 基本的な枠組み —

基本構想

- 目標年次

2040年

- 基本目標

「いのち輝くマグネット神奈川」の基本理念
の下で実現をめざす神奈川の将来像を示す。

現行計画から理念を継承したうえで、新たな将来像を描いていく。

実施計画

- 計画期間

2024から2027年度（4年間）

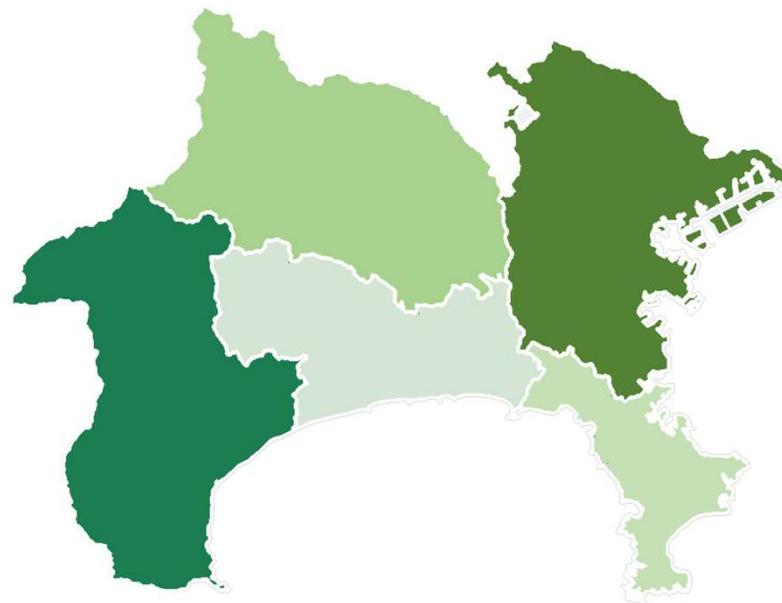
- 構成

「主要施策」及び「プロジェクト」を中心に構成する。
また、数値目標を設定する。

5つの地域政策圏

地域政策圏は、引き続き次の5つを設定する想定

- 川崎・横浜 地域圏
- 三浦半島 地域圏
- 県央 地域圏
- 湘南 地域圏
- 県西 地域圏



川崎・横浜地域圏 (川崎、横浜の各市域)

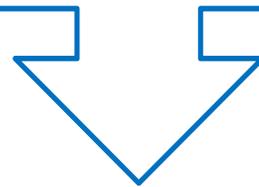
三浦半島地域圏 (横須賀、鎌倉、逗子、三浦の各市域、葉山町域)

県央地域圏 (相模原、厚木、大和、海老名、座間、綾瀬の各市域、愛川、清川の各町村域)

湘南地域圏 (平塚、藤沢、茅ヶ崎、秦野、伊勢原の各市域、寒川、大磯、二宮の各町域)

県西地域圏 (小田原、南足柄の各市域、中井、大井、松田、山北、開成、箱根、真鶴、湯河原の各町域)

今後、各地域政策圏の「めざすすがた」や政策展開の方向を検討する。



県内自治体のご意見を伺いながら検討していきたい。

【参考】 5つの地域政策圏

地域政策圏別の「めざすすがた」（現行基本構想より）

川
崎
・
横
浜

世界と、神奈川そして日本の交流・結節地域として、これまでの文化や産業の集積を生かした生活環境や生産環境の整備を進め、良好な環境が保全され、にぎわいや活力があふれ、世界とつながる文化や産業を発信し、国際性豊かで魅力ある地域づくりをめざします。

三
浦
半
島

首都圏における貴重なみどりと三方に広がる海、豊かな歴史的文化遗产、美しい景観など三浦半島が持つ地域資源を保全し、これを活用することにより、うるおいをもって快適にさせるようにするとともに、首都圏や海外からも多くの人々が訪れ、楽しめる「公園」のような魅力と活力にあふれる地域づくりをめざします。

【参考】 5つの地域政策圏

地域政策圏別の「めざすすがた」（現行基本構想より）

県
央

水源地の豊かな自然を守り、これを活用した地域の魅力づくりと活性化を進めるとともに、自然と都市、産業が調和し、うるおいと活力にあふれた地域づくりをめざします。

湘
南

湘南のなぎさや丹沢大山のやまなみなどの豊かな自然環境や、湘南地域で育まれた文化の保全や活用を図るとともに、交通ネットワークの整備とあわせた都市機能の向上や、環境と共生したまちづくりを進め、豊かで活力にあふれた地域づくりをめざします。

【参考】 5つの地域政策圏

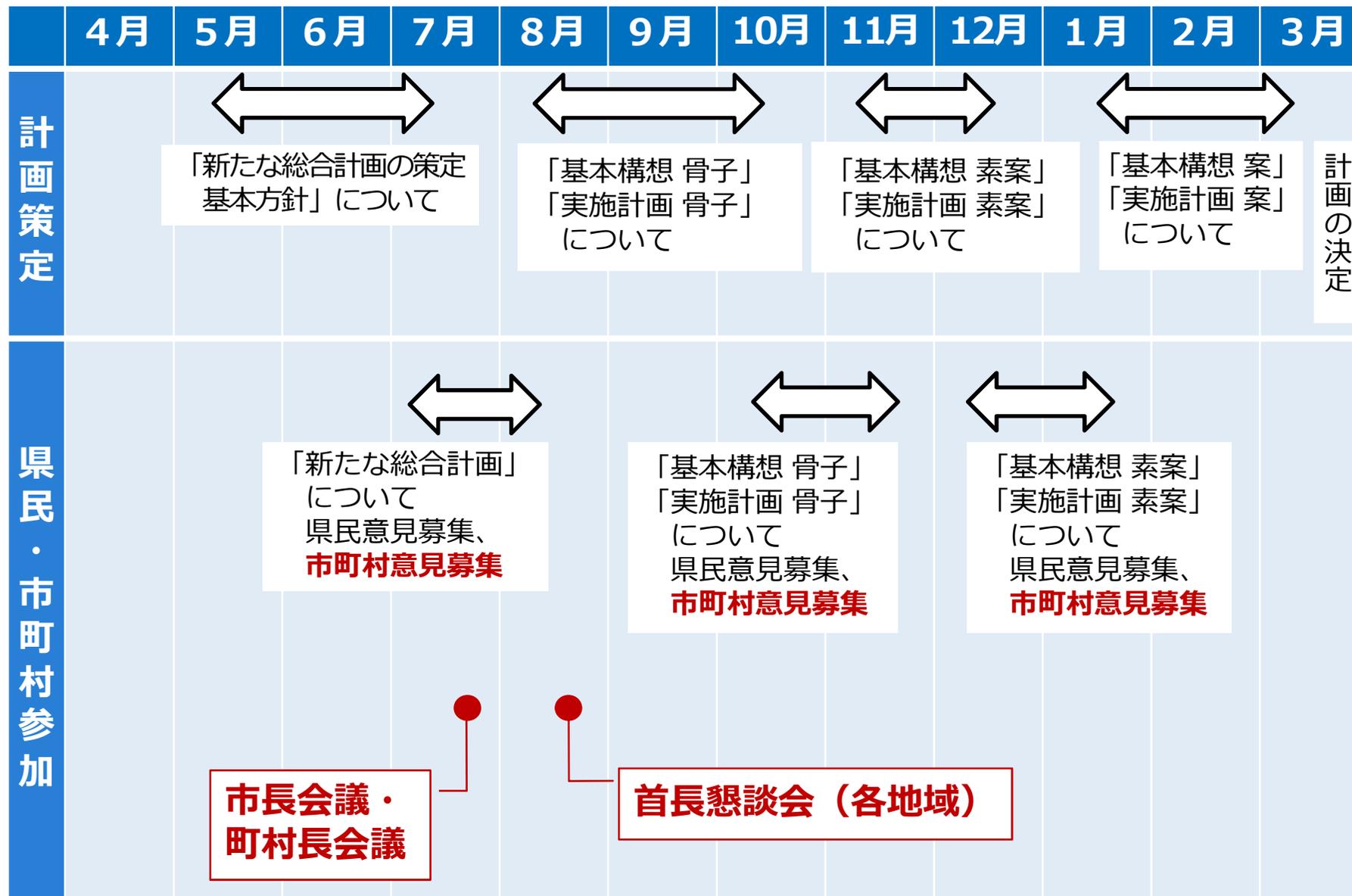
地域政策圏別の「めざすすがた」（現行基本構想より）

県
西

豊かな自然や歴史・文化などの地域資源を生かし、国内外から来訪する多くの人々の多様なニーズに応えるとともに、地域の特色を生かした様々な生産活動が営まれ、職・住・遊が一体となって豊かな暮らしを実感できる、活力と魅力あふれる地域づくりをめざします。

スケジュール

令和5年度



ごあいさつ



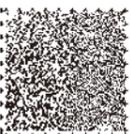
神奈川をとりまく社会環境は、少子高齢化・人口減少が進んだことに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や国際情勢の不安定化など、大きく変化しています。これまで、県では、「いのち輝くマグネット神奈川」の実現に向けて取組を進めてきましたが、この理念を継承しつつ、2040年頃の神奈川を展望した「基本構想」と、2024(令和6)年度から2027(令和9)年度を計画期間とする「実施計画」で構成する新たな「総合計画」を策定することとしました。将来の展望や課題を明らかにして、長期的なビジョンを県民の皆様と共有し、共にこれからの神奈川づくりを進めていきたいと考えています。ぜひ皆様も新たな「総合計画」に対するご意見・ご提案をお寄せください。

神奈川県知事 小池 忠志

2023

神奈川をとりまく社会環境

2008年に日本が人口減少に転じて以降も、神奈川の総人口は一貫して増え続けてきましたが、2021年10月に統計開始以降初めて前年同月と比べて減少に転じ、神奈川も人口減少局面に入ったと考えられます。団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年頃に向けて、さらなる高齢化の進行が見込まれます。



2040年の神奈川に期待する「姿」は？

2040年の神奈川を考える
50の視点 詳しくはこちら



2040

2024-2027

誰もがチャレンジできる社会



年齢、性別、国籍、障がいなどにかかわらず、誰もが新しいことを始めたりチャレンジできる社会。

様々な人が共生する社会



多彩な人材が集まる神奈川ならではの支え合いによって、様々な人が共生する社会。 など

デジタル活用を支援



誰もが便利な生活がおくれるよう、デジタル活用を支援。

多世代交流の充実



子育ては、周りの助けがあってこそ。多世代交流の充実。 など

2040年の神奈川に向け、
今、行政に何を求める？
あなたは何ができる？

